



ペット同行避難について 歴史あるまちづくりについて

いぢかの会 つつ木みゆき

問 全避難所でペットの受け入れ対応を実施するため、9月4日有馬小・中学校と国分コミセンの2か所の避難所で試行的にペットの受け入れ対応を行いました。その時に見えてきた課題について伺います。



答 (市長室次長)：令和4年2月から災害時などに開設する全ての避難所でペットの受け入れを開始し、これを踏まえ、9月に実施した避難所開設訓練では、2か所の避難所において、試行的にペット同行避難受け入れを行いました。参加者へのアンケートなどから大きく3点の課題が見えてきました。1点目は、施設ごとのペットエリアについて、2点目は、ペットの糞尿の処理や世話、管理について、3点目は、飼い主同士が協力する体制作りについてです。これらの課題については飼い主の方やペットの不安を取り除くようさまざまな視点で検討してまいります。

問 文化財の利活用や、後世に引き継いでいくために、子どもたちにどのような教育がなされているのか伺います。

答 (教育部長)：昨年度は相模国分寺跡史跡指定100周年であったため、奈良時代の相模国分寺復元VR体験などを開催しました。また、子どもたちに相模国分寺を知つてもらいました。また、子どもたちに相模国分寺を知つてもう取り組みとして、コロナ禍前は、広い敷地を利用して相模国分寺むかしまつりを3回開催しました。この秋からは相模国分寺あそびのひろばを開設して史跡地を家族で訪れ、楽しめる機会を増やす取り組みを行っています。

答 (教育担当理事)：小学生の社会科の授業や中学生の調べ学習で温故館を活用するなど、今後もさまざまな手法を活用して、周知を図つてまいります。

- ・「コロナ禍での子どもへの影響について
- ・子どもの居場所について
- ・雪対策について

その他の質問

- ・公園管理のあり方について
- ・保育環境をよくするための取り組みについて



相模川の越水に備えた 防災対策について

立民相原志穂



帯状疱疹ワクチン接種について 情報公開のあり方について

吉田みな子

問 帯状疱疹ワクチン接種助成事業実施についての市の考え方を伺います。

答 (保健福祉部次長)：発症予防効果や予防期間などは専門家などによりさまざまな見解がありますが、1回接種のワクチンは約50%で8年程度、2回接種の不活化ワクチンは約90%以上で8年以上と言われています。

答 (市長)：令和元年台風19号の教訓を踏まえ、相模川氾濫基本的対処方針を策定しました。また、市内に立体駐車場などを保有する企業と水害時緊急避難場所としての協定を締結し、現在約7500台分の避難スペースを確保しています。さらに、令和5年3月には防災ガイドブックを更新し、全戸配布する予定です。逃げ遅れによる犠牲者ゼロを目指します。さまざまな対策に取り組んでまいります。

答 (危機管理担当部長)：台風19号では約5千名の市民が避難所へ避難されましたが、一方で浸水想定区域内でも自宅にペットがいたため避難されなかつた方が多くいました。

このため、令和4年2月から災害時に開設する全ての避難所でペットの受け入れを開始しました。3月に全戸配布予定の防災ガイドブックに水害時緊急避難場所や避難所におけるペットの受け入れについて反映するなど、今後もさまざまな手法を活用して、周知を図つてまいります。

- ・プレスリリースなど、公式な発表をしていないのはなぜか、理由を伺います。また、高校3年生まで医療費無償にする方針を市内意思決定したのはいかが伺います。

その他の質問

- ・子ども医療費助成制度について
- ・保育環境をよくするための取り組みについて

